

特集 へつなぐ・つながるく

おたんじょうび おめでとう

永田 陽子

ファックス出そうよ

「今日、R君来るかな?」「またお休み?」「R君
どうしているのかな?」五歳児十二月の朝。十一
月から母の病気で田舎へ行ってしまったR君を気

にしている様子が部屋のあちこちから伝わってき
ます。「R君が来たらこれあげるんだ」と、絵を
描いたり空き箱でR君の大好きな車などを作った
りしている子もいます。もうすぐR君の誕生日の
日です。「みんなで作ったカード送ろうか?」と

提案すると、子どもたちは、「カードはみんなの前でもらいたいよね」「そうそう、どきどきしてうれしんだよね」「カードを送っちゃうと、もしR君が誕生日に来たらあげられないから、送らないほうがいいよ」という意見も出ました。そこで、みんなでR君が来ることを祈って、誕生日の日を迎えることにしました。

でも、その日、R君は来ませんでした。子どもたちのがっかりした気持ちが伝わってきました。せめて、「おたんじょうびおめでとう」と言いたいみんなの気持ちだけでも伝えたいと思い、「どうしようか？電話しようか？」と投げかけてみました。「先生、ファックスにしたら？みんなでお手紙書いて送るの」というE子の提案に、「ファックスって何？」と言う子もいましたが、「そうしよう」ということになりました。子どもたちは園長先生に許可をもらいにいったり、紙を

用意したりして寄せ書きが始まりました。私も参加しようと覗いてみると、そこには絵が描いてあったり、「すもうのえじょうずだね。いつもすごいとおもっていたよ。こんどおしえてね」、「おめでどう。はやくあいたいな」、「いつも、なにしているの？」など、みんなの気持ちで二枚の紙が一杯になりました。殆ど一緒に遊んでいなかった子どもたちの心のこもったメッセージにも驚きました。みんなでファックスを出しに行きました。初めてファックスを見て、紙がまた出てきたので届かないのではな
いかと不安に思っ
た子もいました。

R君も元氣
なんだ

お弁当を食べて



いると、園長先生がにこにこしながら「R君からお返事きたわよ」と、ファックスを届けてくださいました。みんなで大喜びでそれを見ました。おばあちゃんと一緒に作ったという、六ぼんのろうそくが立っている大きなケーキの前にR君が笑って立っている絵と、弟と縄跳びをしている絵でした。「みんなの気持ちとR君の気持ちがつながっているんだ！」ということを実感した瞬間でした。それからは、「R君、どうしているかな？」の声は聞かれなくなりました。その絵を壁に貼っておいたら、子どもたちが時々その絵の前に立ってじっと見ていました。私にはその絵を見ながらR君の姿を心に描いているように見えました。前にクラスで歌っていた『あいたいひとにあいたいときはーよんでみようよーそのなまえー…かえってくるよーあのほほえみがー』という『ホ・ホ・ホ』の歌が自然とはやりました。歌を口ずさむこ

とで安心したようです。一ヶ月後、R君が登園しました。うれしさのあまり走り寄り抱きついた子もいました。私もR君の少し照れたような顔を見てほっとしました。

一緒にいなくても一緒だね

『つながる』とは、いつも一緒にいることではなく、たとえ一緒にいなくても心の中にその人の存在が描けることだろうと思います。R君の幼稚園に行きたいけど行けない思いや、みんなに会いたいけれども会えない思い、そして、みんなのR君を気にかける思いや会えない寂しさなど、いろいろな思いは、そのまま、お互いのつながりの中で生まれていました。R君と過ごした幼稚園での二年間、あるいは三年間に、生活を共にしながら、みんなと一緒にいることで感じる嬉しさ・楽しさ・悲しさ・つらさ・くやしきなどたくさん

思いを共にしたことが根底にあるようです。

ファックスでのやりとりは、そうした「つながり」を具体化することになりました。ファックスというもので「つなぐ」ことで、心の「つながり」が目に見える形となり、子どもたちも自分たちの心の中にある友だちへの思いを意識化し、自覚し、ますます強めていった気がします。保育者の意図だけで子どもたちの気持ちを「つなぐ」ことはできませんが、子どもたち自身に「つながり」を気づかせ、はっきりと自覚させることで、より確かな子どもたちのパートナーシップが構築されるようにかかわることはできるように思います。

共にいる

四月。三歳の新人園児と過ごしながら、一人ひとりばらばらな子どもたちが、これからどのような

なプロセスを辿って、人と「つながっていく」という体験をしていくのだろうかと考えさせられている毎日です。初めて気の合う友だちと出会い、意気投合しうれしさのあまり、奇声を発しながら走り回り、翌日も一緒に遊ぼうとすると、今度は「あっち、行って！」と拒否され、悲しい思いをしたりと、いろいろな体験をしている子どもたちです。しかし、「つなぐ」ことを急がず、こういう気持ちの積み重ねを通して、幼稚園生活の中で「つながった」という実感を十分に味わって欲しいし、私自身も味わいたいと思います。人が人として、周囲の人と共に存在しあっていることの実感を大切にしていきたいと考えています。

(日本女子大学附属豊明幼稚園)